

# 会 議 録

会 議 名	第1回辰野町立小・中学校あり方検討委員会
開 催 日 時	令和6年1月25日（木曜日） 午後6時30分～午後8時00分
場 所	辰野町民会館 大会議室
出 席 者	出席者 委員17名中15名、教育委員5名、事務局5名
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 教育長あいさつ</li> <li>3. 委嘱書交付</li> <li>4. 自己紹介</li> <li>5. 委員会設置要綱</li> <li>6. 正副委員長選出</li> <li>7. 正副委員長挨拶</li> <li>8. 協議事項</li> <li>9. その他</li> <li>10. 閉会</li> </ol>
	発言の内容
教 育 長	<p>2. 教育長あいさつ</p> <p>近年、学校を取り巻く社会的環境は大きく変化し始め、全国的規模で進む人口減少・少子化は、多くの自治体において学校の統廃合を含め、これからの学校のあり方について、再考を促す要素としてクローズアップされてきました。この状況は、この辰野町においても同様であり、かつ深刻な問題となっていますし、3年半余に及ぶコロナ禍がこの問題に一層拍車を掛けてしまいました。少子化により子どもの数が減少していても、社会性を身に付ける場としての学校の教育環境の水準は維持されなければなりません。そこで皆様の知恵をいただきながら、少子化に対応する学校のあり方を協議していきたいと考え、ここに「辰野町立小・中学校のあり方検討委員会」を立ち上げることといたしました。私は単純に、子どもの数が減少するので複数の学校を一つにまとめて検討は終わりということではなく、1つにするだけでよいのか、これからの社会を生き抜く子どもたちへの学校教育として、統合してもその先、どのような学びが期待できるのか、地域とはどのような関わりができるのかまで、深い協議をお願いしたいと考えています。大変な検討委員会ではありますが、明日を担う辰野町の子どもたちの教育のあり方についてのご協議を、よろしく申し上げます。</p>

	<p>3. 協議</p> <p>(1) 新たな「辰野町立小・中学校あり方検討委員会」の立ち上げについて  宮澤教育長から「あり方検討委員会」立ち上げの背景を近年の出生者数や教育環境を交えて説明。辰野町の教育理念と方針、辰野町が目指している教育を説明。検討委員会での検討事項は、少子化の進展に対応した望ましい教育環境のあり方、就学前から一貫した支援・指導のあり方に関する事項、その他、教育委員会が必要と認める事項。</p> <p>(2) 町内小・中学校の現状について  事務局より説明。町内の18歳未満の児童生徒数の状況から地域別数、学校別推定入学児童数を説明。2012年以降の県内での統廃合があった小学校、辰野町内の小中学校の歴史を説明。</p> <p>(3) 検討委員会の進め方について  教育長より説明。今回出された意見や要望を論点整理し、議事録を作成し、委員確認の上、資料と共にホームページへ掲載。委員会は、2ヶ月に1回の開催を予定。第2回は、今回の論点整理から始まり、学習会を予定。協議を進める中で、県内先進地の視察を実施し、大まかな論点整理ができたところで、パブリックコメントの実施を予定。</p>
	<p>(4) 質疑応答・意見交換</p>
<p>教 育 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日は現状把握と、それに伴う意見交換をさせていただきます。次回、2回目以降の方向は、本日出されたご意見や要望等を論点整理し、議事録を作成いたします。資料と共にホームページに載せてまいります。</li> <li>この検討委員会の全体スケジュールは、今回は提示してはおりませんが、次回第2回の委員会において提案させていただきます。委員会は、2ヶ月に1回は開催を考えており、1ヶ月前には開催通知をお送りいたします。</li> <li>次回、第2回目の委員会は、今回の論点整理から始まり、学習会を予定しています。文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」、長野県教育委員会の「少子・人口減少社会に対応した活力ある学校環境のあり方及び支援方策」や先進事例を学び、情報交換をいたします。</li> <li>次回までにゴールまで見越した全体スケジュールを提示したいと思います。検討委員会として、協議いただく中で、県内先進地及び先進地校への視察も実施予定です。また、大まかな論点整理ができ次第、パブリックコメントを実施いたします。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置要綱の中の所掌事項で、最終的に「辰野町教育委員会へ提言するものとする」とありますが、提言するまでの時間、提言がどの程度、教育委員会に対して縛りがあるのか、提言の中から教育委員会が取捨選択するのかお教えいただきたい。</li> </ul>
<p>教 育 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間の内には、このあり方検討委員会で提言をまとめて、教育委員会に提出を考えております。教育委員会でも検討していきますが、基本的には提言を尊重してまいりたいと思います。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討委員会の結果は、令和10年以降と考えておりますけれども、何か目安があつて決めているのか、又はここで協議されたことが令和11年から反映されていくのか、何か目印や基準があるかお教えください。</li> </ul>

教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つは前回のあり方検討委員会が、当時の今後5年から10年という目安で結論を出しました。その10年のゴールが令和10年に当たるので、それ以降の学校のあり方ということになります。皆様からお知恵をお借りさせていただいて、辰野町の子どもたちの為により良い環境、学校のスタイルが考えられるのかということを決めていきたいと思います。どこかの事例があったから、それを辰野町に持ってきてやりましょうということにしたくない。もしかすると、どこにもない学校のスタイル。これを私は「辰野モデル」と呼んでいます。が、「どこにもない全く新しい学校ができるかもしれない」と個人的には期待を持っています。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、教育長から「辰野モデル」という言葉も出てきましたが、そういったものを作っていくという時に、今日の資料の中では、人数に関する資料は提示されていますが、現状の学校の配置等の現状について、私たちが知っている部分と違う部分もあると思いますので、今の学校の現状を知って、そこからスタートできたらしらと思いましたが、クラス数や、どういった学びの場があるか、先生の配置がどうなっているかの数字的なものをお願いいたします。</li> </ul>
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の資料は出せます。次回、資料を提出させていただきますが、これからやろうとしている先進事例もかなりあります。そういったことも含めて、今、先生方に頑張ってもらって、子どもたちにとって良い環境にさせていただいている、この良さを残していきたい、さらに発展させていただきたいと思っています。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから形をどうするか。これは統合ありきではない部分もあるし、普通に考えたら統合もあるという中で、検討していけば良いと思います。それから教育方針について、先程、目指す姿のお話もありましたが、これは大人から見た小中学校のあり方だと思いますが、今の子どもたちが自分の将来受けるだろう教育でどんな小学校であって欲しい、どんな中学校であって欲しいという、今の小中一貫だとか中高一貫だとか、色々なスタイルがある中で、そういう子どもたちの考えを入れることも必要なのではないかと思います。それでは今の子どもたちに聞くということは別として、そういう観点で大人の考える学校だけでなく、子どもたちに聞いたらどんな学校が良いか。子どもの観点も入れてはどうかと思いましたが。</li> </ul>
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会が学校に対する目標として、「どの子にも居場所がある学校」、子どもたちからすると「明日も行きたくなる学校」を掲げています。子どもたちが行きたいと思う学校、先生からしたら我が子も入れたい学校を目指したいと思っています。子どもの意見も参考意見として受け止めさせていただきたいと思っています。</li> </ul>
委 員 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先程、教育長から「辰野モデル」という言葉がありました。それからあり方検討委員会の設置要綱の第1条の中に「将来を展望した学校の適正規模・適正配置及び学校のあり方」、或いは、あり方検討委員会の立ち上げの背景というところで「新たな枠組みによる新しい学校の形を検討していく時期に来ている」とありますが、これは具体的にどういったところから来ているのか詳しく聞かなくてはならないと思うのですけれども、この検討委員会で最終的に何を目的としていく</li> </ul>

	<p>か。このあり方検討委員会で、目標と言いますか、そういった形でこの検討委員会が結論と言いますか、提言の中身をまとめたら良いかという1番のところを、研究会や提示される資料を基に検討して、絞って意見を言っても中々形になっていかない。そうすれば人口が減った、子どもが減っていくというグラフから、例えば令和15年には小学校は1校、中学校1校にしていく。或いは、20年には義務教育学校にしていく。当然、義務教育学校は問題を抱えていますし、良いも悪いもありますけれども、そういうような形でこの検討委員会に求められているかというところをお教えてください。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>・簡単に言うと、委員長の言われたところまでを、この検討委員会で踏み込んでいこうという考えです。また一方で、先程、地域との連携ということをお話しましたが、これからの学校に求められているのが、地域との連携です。中学校の部活の地域移行という言葉は聞いたことあるかと思いますが、これは実は大きな問題でございます。これは中学校から部活が無くなるということです。中学校から部活が切り離されて、地域の活動にしますということです。この問題は中学だけに留まらず、小学校にも必ず降りてくるという事を見越していかなくてはなりません。そうすると、小学校の金管バンドや合唱等の課外活動にも影響が出てくるであろうと思います。ですから、学校をただ集約していくのではなくて、整理してまとめていくのと同時に、地域との関わりという部分をどうしていくのか。1つにしてしまうと、地域との結び付きが希薄になりがちですが、それでは困ってしまいます。これも大きな課題です。</p> <p>このところ学校教育に求められているハードルが物凄く上がっています。ですから、そこを共に考えていきたいと思っております。学校再編だとか統合だけではなくて、小中の関係、地域との関わりをどうするのか、そこも含めて協議していただきたいと思っております。未来への明るい展望の持てる学校を作っていくてはいけないと思っております。いただいた意見を参考に整理させていただいて、また次回以降、示させていただきたいと思っております。</p>
<p>副 委 員 長</p>	<p>4. 閉会</p> <p>・以上で第1回辰野町立小・中学校あり方検討委員会を終わります。</p>